学生大使 実施報告書

氏名：山田朱莉
学部・学科（コース）・学年：人文社会科学部総合法律コース１年
派遣先大学：ガジャマダ大学
派遣期間：2025年2月26日から2025年3月12日

１ 日本語教室での活動内容

現地学生の学びたい内容に合わせて、「ひらがな・カタカナ」、「漢字」、「コミュニケーション」の3つの分野に分かれて日本語教室を行った。「ひらがな・カタカナ」コースでは、最初に 50 音すべての読み方と書き順を教えた後、適当な英語の単語と日本語の読みを提示し、現地学生にひらがなで書いてもらう形で問題を出した。「漢字」コースでは、最初は数字の数え方（一～十、百、千、万）、家族構成（父、母、兄、姉など）などの読み方と書き順、意味を教えた。簡単な漢字を一通り教えた後、動詞や形容詞に移行した。「コミュニケーション」コースは、もう既に日本語がある程度話せる学生やより詳しい文法を学びたい学生を対象とし、日本語での自己紹介からより深い会話までを行った。今回、学生大使の人数も 16 人と多かったが、それ以上に多くの現地学生が参加してくれ、充実した時間にすることができた。日本語教室には、ほとんどの学生が継続して出席してくれていた。2週間で0の状態からひらがなの読み書きと簡単な自己紹介ができるようになった学生もおり、やりがいも感じた。

2 日本語教室以外での交流活動

2週目の金曜日の時間を使って、文化交流行事を行った。習字、かるた、折り紙、けん玉、あやとりの体験を用意した。私は、かるたを担当した。かるたは、最初に英語とひらがなの簡単なかるたから始め、次に日本の都道府県のかるたで遊んだ。札を取った現地学生に札の文字を読んでもらうことで日本語の学習も取り入れた。都道府県を紹介する際に、特産品や観光名所を紹介したことで、現地学生も日本への関心を高めながら、楽しんでもらえたと思う。最後の授業の時間では、フェアウェルパーティーを開催し、現地学生に日本にちなんだクイズを出した。現地学生からたくさんのインドネシアのお土産を貰い、とても嬉しかった。たった2週間の日本語教室だったが、その中で沢山の友情を築くことができた。

また、休日や放課後には、ジョグジャカルタの観光名所である寺院やビーチに行ったり、大学近くのショッピングモールや飲食店に出かけたりしてとても充実した時間を共に過ごした。最も印象に残っているのは、バディの１人の家を訪問し、周囲をサイクリングしたり、手料理をごちそうしてもらったりしたことだ。日本では絶対にみることのできない景色が広がっていて新鮮だった。とても貴重な体験だったと思う。日本語教室の後のお昼の時間では、大学のカフェテリアで日本語教室に来てくれていた学生と話しながらお昼ご飯を食べることもあった。日本語教室ではできない気さくな会話を楽しむことができた。

3 参加目標への達成度と努力した内容

私の今回のプログラムへの参加目標は、日本とインドネシアでの国民性や文化の違いを自分の目

で知ること、英語でのコミュニケーションに自信を持つこと、そして受け身ではなく自分から行動し現地学生と関係を築くことだったが、達成できた思う。私はこれまで人を引っ張っていく立場になったことがあまりなかったが、日本語教室では、自動的に私が授業を進行していかなければなかった。1回目では納得いく形の授業をすることはできず悔しい思いをしたが、友人からどのように授業を進めているかアドバイスを貰ったり、準備物を工夫したりすることで、回数を重ねるにつれて自分の授業の形を作っていくことができた。自分の英語力はまだまだだと感じることばかりだったが、一方で伝えようという気持ちが強く、話すことを恐れることはなくなった。インドネシアでは、大学内に礼拝所があったり豚肉を提供している飲食店がほとんどなかったりなど、宗教を信仰している人が日本に比べて圧倒的に多い。今回の渡航期間中にラマダンに入り、宗教の違いをより強く実感した。日本の宗教観について現地学生から質問され、答えるととても驚いており日本の当たり前は外国では当たり前ではないということも身にしみて感じた。また、インドネシアの人たちはオープンな性格の人が多く、話してすぐに仲良くなれた。そのような性格に助けられ、こちらも話しやすく、気軽に話しかけに行くことができた。

4 プログラムに参加した感想

初めは、現地での生活はもちろん学生との交流の面でも不安が大きかったが、最終的には最初に想像もできなかったほど、日本語教室の学生やバディと仲良くなれて、そのフレンドリーな国民性に驚かされた。眠くなるまでホテルのロビーで話したことや拙い英語で何とか気持ちを伝えようとしたこともすごく貴重な時間だったと感じている。日本語教室の運営や授業の進め方については、至らぬ点が多々あったと思うが、毎回新たな工夫をしてできるだけわかりやすい教え方ができるようにブラッシュアップしていく過程で沢山考えたことが勉強になった。2週間朝から夜まで誰かと話していることがほとんどで、人とのつながりを実感することが多くあった。沢山の人のおかげでこのような充実した時間を過ごすことができ、とても感謝している。短い間ながらも多くの初めてを経験し、自分自身の成長を感じる場面も多かった。このプログラムに参加したことは、4年間の大学生活の中でも大きな糧になると思う。インドネシアの人たちが本当に大好きになったので、必ずまた行きたい。

5 今回の経験を踏まえた今後の展望

今回、インドネシアの学生と沢山交流したことで、海外の人と会話する楽しさや会話から生まれる新たな発見の数々を知ることができた。私はこれから今まで以上に外国語の勉強に取り組み、自分の語学力に自信を持てるようになる。そして、山形大学にいる留学生と交流する場にも進んで参加していきたい。このプログラムへの参加をただ楽しい思い出として終わらせるのではなく、新たなきっかけととらえて今まで挑戦してこなかった活動に参加していきたいと思っている。

6 現地での活動写真

写真1

バディの家で食事

写真2

文化交流 かるたで遊んでいる様子

写真３

日本語教室 現地学生と一緒に

写真４

学生大使とバディ 集合写真